

『月刊ニューステーブル』2018年7月号

～青空色のテーブルクロスの上に——新鮮なニュースを載せてお届けします～

被災地の声をもとに開発された「玄米おかゆ」 非常時も普段も食べられる「無添加調理」の新商品

石井食品



画像出典：石井食品(株)

石井食品（本社：千葉県船橋市）では、新しい防災の価値提案を行なう一般社団法人防災ガール（所在地：東京都文京区）と共に開発した新商品『potayu（ぽたーゆ）』の販売を開始した。石井食品の強みでもある「無添加調理」で作られた、素材本来の味わいや美味しさを際立たせた玄米のおかゆ。

同社では東日本大震災を機に「非常食セット」を開発。現在も自治体や企業などで販売されているが、2016年に発生した熊本地震の被災者の声をもとに、さらなる商品開発に挑み生まれたのが本商品。「元気になる食事がしたい」「野菜が少ない」「栄養バランスが悪くなる」などの声に基づいて、国産玄米と色鮮やかな3種の野菜をベースにした『potayu』が開発された。

賞味期限は360日で、非常食としてそのまま食べられることはもちろん、普段から日常の食事としても美味しく食べられる。

賞味期限は360日で、非常食としてそのまま食べられることはもちろん、普段から日常の食事としても美味しく食べられる。

「今年の恵方は南南東——」夏にも恵方巻を丸かぶり 8月6日の節分に無病息災・商売繁盛を祈願

ミニストップ



画像出典：ミニストップ(株)

「今年の恵方は南南東——」とは、2月の節分のときによく見聞きしたフレーズ。されど節分は春だけに限らず四季を通じて迎えるものという点から、ミニストップ（本部：千葉県千葉市）では『夏の恵方巻』の予約を開始した。

ちなみに今年の夏期の節分は、8月7日の「立秋」の前日である8月6日。同社定番の「幸福恵方巻」「海鮮恵方巻」に加え、「ヒレカツ恵方巻」、スイーツ商品として「京きなこ黒みつロール」などが店頭に並ぶ。

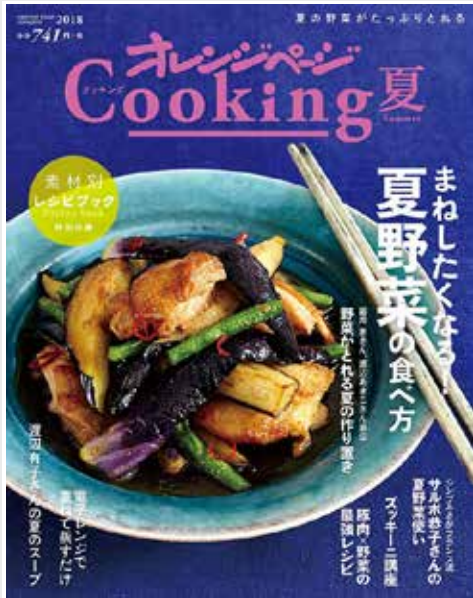
恵方巻きの食べ方の流儀は各地域によりさまざまだが、その年の「歳徳神のいる方角＝恵方」を向いて、

幸福を願いながら丸かぶりし、無言のうちに完食すると「無病息災」や「商売繁盛」などの願いが成就する——とされている。

夏野菜を使ったさまざまなレシピ集

「夏に作りたい野菜の郷土料理」の作り置きレシピに注目

オレンジページ



画像出典：(株) オレンジページ

オレンジページ（本社：東京都港区）では、四季を通じた年4回、料理専門誌『オレンジページ Cooking』を発刊しているが、今回の「夏号」では「夏野菜のおいしい食べ方」をさまざまな角度から取り上げている。

料理家の藤井恵さんが、夏野菜と相性のいい4つの味のバリエーション「韓国風甘辛味×牛肉」「塩しょうが味×鶏肉」「甘みそ味×豚肉」「カレー味×ひき肉」などを提案。暑さの厳しい夏でもおいしく食べられる、体にうれしいメニューについて解説されている。

また、郷土料理に造詣が深い料理研究家の渡辺あきこさんが、「夏に作りたい野菜の郷土料理」として、各地を旅して出会った郷土料理を、家庭で作りやすい「作り置きレシピ」にして紹介している。

夏野菜と旬の魚などを使った77品を掲載した特別付録『素材別レシピブック』にも注目。

「とうもろこし」の美味しい季節

実の根元からきれいにそぎ落とせる『とうもろこしピーラー』が便利

下村工業



画像出典：下村工業（株）

プリプリとした歯ごたえが味わえる「とうもろこし」の美味しい季節を迎えている。茹でたとうもろこしに軽く塩をふって、かぶりついて食べるのも醍醐味のひとつだが、文明の利器を使って粒を無駄なくこそぎ落として料理に用いるというのも楽しい。

キッチン用品の製造販売を手がける下村工業（本社：新潟県三条市）の人気ブランド『フルベジ』シリーズから『とうもろこしピーラー』が登場している。

「包丁でとうもろこしの粒を切り取るのはとても大変」そんな声から生まれた『とうもろこしピーラー』は、波刃加工が施された刃先がとうもろこしの実の根元に絶妙に食い込み、気持ちよくそぎ落とすことができる。

食育を学ぶための導入ツールとしても人気 木製玩具の定番おままごとセットが、累計20万セット販売を達成 ディンギー



画像出典：(株) ディンギー

庭にゴザを敷いて、石ころや雑草で料理して——遠い昔、誰にでも一度や二度は「おままごと」の経験があるのではないだろうか。ディンギー（本社：兵庫県神戸市）では、同社が取り扱う木製玩具ブランド『ウッディプッディ』が展開する『はじめてのおままごとサラダセット 木箱入り』が、2008年の同型商品発売以来、累計20万セットの販売を達成したことを発表した。

同商品は、トマト、にんじん、なす、きゅうり、レモンの人気食材とあわせて、包丁、まな板、ピーラーの調理ごっこに使えるアイテムが、専用のお片づけ木箱に収められた「おままごと

初め」に最適なセット。「食育を学ぶための導入ツール」としても人気を博しているのだという。今回は累計20万セット販売達成を記念したキャンペーンも実施している。

7月11日は『ユニバーサルデザインフードの日』 食べやすさに配慮した『UDF』のプレゼントキャンペーンを実施 日本介護食品協議会



画像出典：日本介護食品協議会

日本介護食品協議会（所在地：東京都千代田区）では、7月11日の『UDF（ユニバーサルデザインフード）の日』を記念して、「UDFプレゼントキャンペーン」を実施する。

「ユニバーサルデザインフード」とは日常食から介護食品にいたるまで「食べやすさ」に配慮した食品で、同協議会が制定した規格に適合する商品だけについている『UDFマーク』が目印。ユーザーが店頭で選び易いように、『UDFマーク』が表示されているどのメーカーの商品にも「かたさ」や「粘度」の規格によって「容易に

かめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」「かまなくてよい」の4つの区分に分類されている。この区分を目安にして、利用者はニーズに適した商品を安心して選ぶことができるというもの。

2003年7月11日に「ユニバーサルデザインフード（UDF）」の名称と「UDFロゴマーク」が登録商標を受けたことをうけ、同協議会が7月11日を「記念日」として制定した。